

高等学校情報科における OneNote Class Notebook を活用した 観点別学習状況の評価方法の提案

萩原 浩平

東京学芸大学大学院／大成高等学校
r249004y@st.u-gakugei.ac.jp

森本 康彦

東京学芸大学
morimoto@u-gakugei.ac.jp

近年、学習評価の充実が叫ばれており、教師は、いつ、どのような方法で評価資料を収集、活用するかを決定し、観点別学習状況の評価を実施することが求められる。しかし、教師が観点ごとにどの評価資料を用いるかを決定し、生徒1人1人の評価資料を観点ごとに収集して評価することは容易でない。そこで、本研究では高等学校情報科における OneNote Class Notebook を活用した観点別学習状況の評価方法を提案することを目的とし、本稿では OneNote Class Notebook の活用方法について述べた。

1. はじめに

各教科等の評価について、国立教育政策研究所では、資質・能力の3つの柱に対応させた「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から生徒の学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と総括的に捉える「評定」を実施するとされる⁽¹⁾。学習評価を行うにあたり、教師は学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえ、いつ、どのような方法で評価資料を収集、活用するかを決定して「指導と評価の計画」を作成し、観点別学習状況の評価を実施することが重要となる。しかし、教師が観点ごとの評価にどの評価資料を用いるか決定し、生徒1人1人の評価資料を観点ごとに収集して評価することは容易でない。

一方、GIGA スクール構想によって1人1台端末環境が整備され、授業における学習クラウドの活用が広く行われるようになった。ここで、学習クラウドを活用して教師が観点ごとに生徒の評価資料を収集、整理して確認できれば、観点別学習状況の評価を容易にできるのではないかと考えた。

そこで、本研究では、高等学校情報科における OneNote Class Notebook (以下、Class Notebook) を活用した観点別学習状況の評価方法を提案することを目的とする。本稿では、Class Notebook の活用方法について述べる。

2. Class Notebook とは

Class Notebook は、Microsoft 365 組織アカウントを持つ全ての教師、生徒が利用可能な、Microsoft Teams 上で使用できる OneNote である⁽²⁾。Teams において「クラス」として作成したチームで1つの Class Notebook を使用でき、Class Notebook に入力した内容は SharePoint を介して同期、保存、管理される。

Class Notebook は、教師と生徒本人のみがアクセスでき、資料を閲覧、編集できる「学生ノートブック」、教師のみが資料を共有、編集でき、生徒は

資料を閲覧できる「コンテンツライブラリ」、教師と全ての生徒が資料を閲覧、共有、編集できる「コラボレーションスペース」、教師のみが資料を閲覧、編集できる「教師のみ」の4つのスペースで構成される。各スペースでは、教師が授業資料やワークシートを添付して配布したり、生徒がメモや考えを書き込んだりする「ページ」を作成できる。

また、複数のページをまとめた「セクション」、複数のセクションをまとめた「セクショングループ」を作成でき、各ページのリンクを取得できる。

これらの特徴を持つ Class Notebook を活用して、科目や単元(内容のまとまり)でセクションを管理し、観点ごとに用いる評価資料と対応づくページを作成することで、教師が生徒1人1人の評価資料を学習クラウド上に収集し、見取りたい観点の評価資料の確認を容易にできると期待される。

3. Class Notebook を活用した観点別学習状況の評価方法

国立教育政策研究所では、学習評価の進め方として「1. 単元の目標を作成する、2. 単元の評価規準を作成する、3. 『指導と評価の計画』を作成する、4. 授業を行う、5. 観点ごとに総括する」の5つの段階が示されている⁽¹⁾。これらの段階に基づく、Class Notebook を活用した観点別学習状況の評価方法を以下に示す。

1) 単元の目標を作成する

教師は、学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説を踏まえ、授業で育成を目指す資質・能力を明確化して単元の目標を作成する。

2) 単元の評価規準を作成する

教師は、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料⁽³⁾に記載される「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて、単元の評価規準を作成する。

3) 「指導と評価の計画」を作成する

教師は、1)と2)で作成した単元の目標と評価規準を踏まえ、いつ、どのような方法で評価資料

を収集、活用するかを決定して指導と評価の計画を作成する。本研究では、森本（2023）を参考に③、高等学校情報科で観点ごとに用いる評価資料を表1のように定める。教師は、表1を参照して見取りたい観点に対応づく評価資料を決定する。

指導と評価の計画の作成後、教師は Class Notebook を活用して授業と評価を実施するための準備を行う。具体的には、まず、評価資料を科目や単元ごとに収集するため、科目に対応づくセクショングループと単元に対応づくセクションを作成する。次に、指導と評価の計画に基づき、授業で用いるワークシートや振り返りシート等を添付した授業で用いるページを作成する（図1）。最後に、作成した授業で用いるページのリンクを取得し、観点ごとに整理して観点別学習状況の評価に用いるページを作成する（図2）。

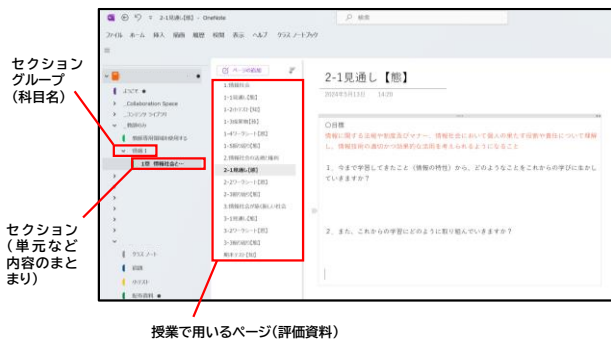


図1 単元ごとの評価資料を蓄積するための Class Notebook の画面例

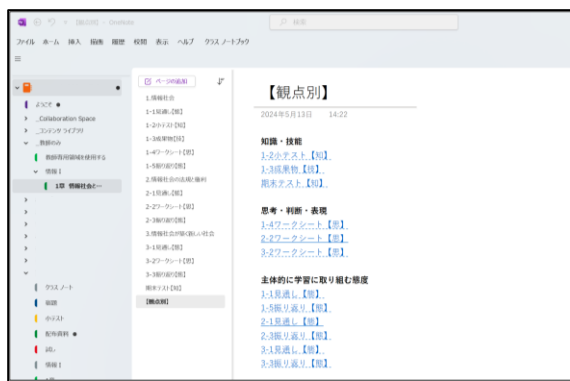


図2 観点別学習状況の評価で用いるページの例

表1 高等学校情報科において観点ごとに用いる評価資料とその説明

観点	評価資料	説明	
知識	テスト	小テスト, 中間テスト, 期末テスト.	
技能	学習成果物	制作したプログラム, データ分析の記録等.	
思考・判断	・思考プロセスの記録 ・振り返りの記述	・課題解決の中で考えたことの記述. ・考え方がどのように変わったかとその理由の記述.	
表現	プレゼンテーションの記録	・作成したプレゼンテーションの資料. ・プレゼンテーションの動画.	
主体的に学習に取り組む態度	粘り強さ	端末への書き込みの記録	テスト, ワークシートへの書き込み, 学習成果物, 課題, 振り返りの記述の提出状況.
	自己調整	振り返りの記述	・今までの学習を踏まえ, どのようなことをこれからの学習に生かすかの記述. ・工夫したことは何かの記述. ・次の学習にどのように生かしていくかの記述.

4) 授業を行う

教師は、3) で作成した授業で用いるページを生徒に配布して Class Notebook を活用した授業を実施する。生徒は、配布された授業で用いるページに考えたことや振り返りの記述等を書き込み、それらが評価資料として Class Notebook 上に蓄積される。その後、教師は観点別学習状況の評価に用いるページを活用して、見取りたい観点に応じて授業で用いるページのリンクを選択し、生徒1人1人の評価資料を確認する。そして、作成した評価規準と照らし合わせて生徒の学習状況を把握し、授業を改善したり、生徒1人1人の学習支援を行ったりする。

5) 観点ごとに総括する

教師は、観点別学習状況の評価に用いるページを活用して、単元全体を通して蓄積された評価資料やそれに基づく評価結果などを観点ごとに確認し、観点ごとの総括的评价を行う。

4. おわりに

本研究では、高等学校情報科における Class Notebook を活用した観点別学習状況の評価方法を提案することを目的とし、本稿では Class Notebook の活用方法について述べた。なお、現在、A 高校1年生を対象に、「情報 I」の授業において提案方法に基づく実践を行っている。今後は、実践内容とその評価を報告する予定である。

謝辞

本研究は、科研費(23K02681)の助成を受けた。

参考文献

- 国立教育政策研究所:「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 情報】, 東洋館出版社 (2021).
- Microsoft : OneNote Class Notebook, <http://www.onenote.com/classnotebook?omkt=a-JP> (参照日: 2024.05.26).
- 森本康彦: 高等学校情報科の成熟期に向けての課題—学習評価の充実:「何を学ぶか」から「何ができるようになるか」へ—, 日本情報科教育学会第16回全国大会講演論文集 pp.S2-S3.